

参考編ーシカの特性と捕獲について

シカの食性について

シカは、いうまでもなく草食動物。草本類、木の葉（稚樹、灌木、リョウブ等の萌芽枝の葉）、木の実が好物である。ササの葉、樹皮も食べるが、好みの程度はやや落ちる。

①草本類



牧草のような柔らかい草は大好物。夏季には、ササよりもこのような草や高茎草本を好んで食べる。

南アルプスの標高3,000m近い高山までシカが進出するのは、おいしい高山植物を覚えたからだ。その結果、貴重なお花畑が荒らされている。剣山や三嶺でもキレンゲショウマ等のお花畑が荒らされ、防鹿柵で保護せざるをえない。保護できなかったシカの好みの山野草はほとんどが食べられ消滅した。

②木の葉と実



トチノキの実やミズナラの実は栄養豊富でこれも大好物。

木の葉も大好物。立ち上がったたり、枝をたわめたりして食べる。(右写真、森 一生)

③ササの葉と樹皮



I、IIで見たように、ササもよく食べるが、牧草や高茎草本など草本類が十分あれば、ササはほとんど食べない。現実には、山岳地でシカが増えると、先ず、草本類を食い尽くし、同時に稚樹や灌木の葉を食べるが、なくなると、夏でもササの葉をよく食べる。あまりに増えすぎたシカたちは、結局はササの葉も食べつくし、稜線部の一部と樹林内のスズタケを壊滅させた。

なお、晩秋から冬季はササの葉が主食で、樹皮もあわせて食べる。ダケカンバ等の樹皮は夏も食べられる所もあった。落葉は飢えをしのご食べ物の一つである。

シカの痕跡



シカの爪.



足跡&シカ道（右3枚）.



樹木の根株の樹皮を食べ、土も掘る。 このように土を掘るのは、ミネラルを補給するためと思われる。



ぬた場。繁殖期にオスがドロを塗り付け縄張りを主張。



タヌキの溜め糞の周りに生えた草本類。シカがタヌキの糞の獣臭を嫌って近づかないからだ。

シカの落とし物



シカの糞～普通は黒色の俵型.



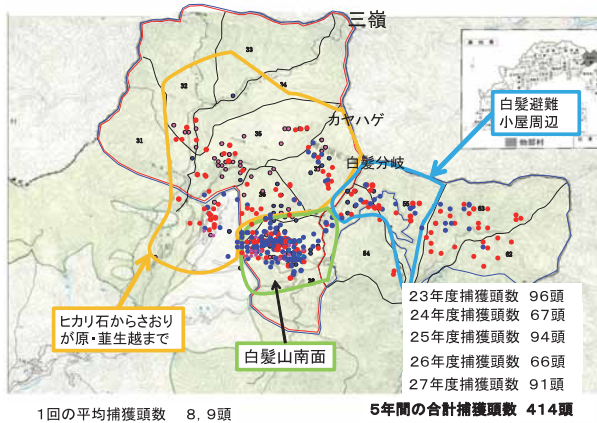
緑色がかった大きい俵型の糞.



茶色っぽい塊りの糞.

三嶺山域で行われているシカの捕獲

① 銃猟



白髪山南面は、広大なササ原があり、地形的にも巻き狩りが比較的やりやすく、最もシカが多く捕れる（図で、点が集中している所：赤点メス、青点オス）。

（図作成：公文雅樹）

巻き狩り～犬に追われて猟師の前に。 香美市が事業主体となって保護区で実施したエリア別捕獲数。



班・射手の場所決めなどの打ち合わせ。 白髪山上部で待つ射手。

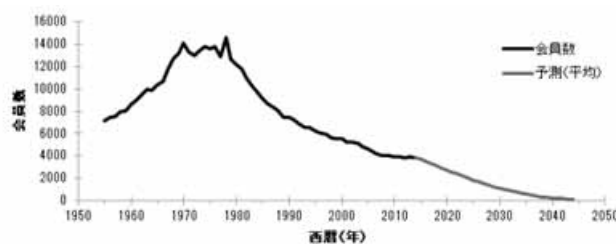
獲物の解体作業。持ち帰って供養。



必死に逃げるシカたち 目撃数のうち25～30%程度を捕獲



ハンター：高齢化の中で



高知県猟友会会員数の推移と予測（図：比嘉基紀）

香美市のハンターは、高齢化しても意気盛ん。だが、10年後はどうなるのだろうか？

②わな猟 そして組み合わせ管理へ



中型囲い罠（白髪山西側の光石牧場跡・香美市）.



大型簡易囲いわな（笹地区・高知中部森林管理署）.



小型箱わな（森林管理署）.



（補）簡易小型箱わな（剣山・徳島県）.

（近年、高知中部森林管理署は直営で100頭以上を捕獲している。）



くくりワナに掛かったシカ（森林管理署）

合わせによって、シカ生息密度を一定以下にとどめる管理を進めて、森の植生再生を目指すことになろう。その際、みんなの会も被害状況や「シカ溜まり」等の情報共有などの役割を担う必要がある。

香美市は、2009年から犬を使った銃猟中心の個体数調整事業を保護区で実施し成果をあげてきた。翌年から、白髪山西に隣接する光石牧場跡（香美市有林）で囲いわなを設置し、年間10数頭ペースで捕獲してきた。ところが、2016年に担当者が、それまでの固形の岩塩と牧草の加工餌（ヘイキューブ）の他に、普通の塩を撒くという工夫をすると、雨で融けて土に塩が混じった部分では、土を掘ってなめており、結果捕獲数は3倍増になった⁽¹⁾。

森林管理署の大型捕獲柵も、安価に設置でき、仕組みに工夫がされており、笹地区では一人の管理で、年40～60頭の捕獲成果があがっている。

小型わなも簡単に設置できて、効果をあげている。くくりワナについては、犬を使う場合に掛かることがあるため、地域では場所限定で行われている。

ハンターが減る今後の個体数調整の方法としては、これらの各種わな猟と巻き狩り猟との効率的な組み合

(1) 公文雅樹（2016）、平成28年度 香美市による捕獲状況、「どう守る三嶺・剣山系の森と水と土—シカ被害対策を考える・シンポジウム(10)」、三嶺の森をまもるみんなの会、pp. 27-31.